

## ずいぶんたくましくなったなあ

今はどうかわかりませんが、私の高校時代には、学校を遅刻した生徒はすぐに教室に入ることができませんでした。真っ先に向かうのは校長室。そこで許可をもらってから教室に入るといふ約束がありました。

いつも遅刻してくるのは、徒歩か自転車で通学していた地元の子供たちがほとんどでした。とりわけ家が学校に近い者ほど遅刻してくることが多く、そのたびにクラスの前はあきれかえっていました。

毎朝、私の前を二人の男子高校生が通っていきます。二人は昨年度の瑞浪北中の卒業生です。今年度より恵那方面の高等学校に電車通学しています。

私の前を通り過ぎるということは、二人とも北中の近くに住んでいるということです。中学時代は、通学にはほんの数分を要していただけの生徒でした。毎朝二人の姿を見る度に、「たった数ヶ月で、ずいぶんたくましくなったなあ」と感心しています。

電車通学が二人をたくましくさせたのだと私は思います。自分に合わせてくれない電車の発車時刻。中学生の時には、周りの環境が遅れた自分を受け入れてくれませんでした。しかし、電車は待っていてくれません。自分が合わせるよりほかないのです。

二人の成長を特に感じるのは、電車の時間に合わせるために自分の脚で、言い換えると、自分の責任で駅に向かっていていることです。「遅くなったから、車で駅まで送っていった」と家族に甘えることもできません。しょう。ついでがあれば「乗せていった」と言いたくもなるでしょう。それをしないで、自分の脚で駅に向かう二人は、立派な大人に成長しつつあるのだと私は思います。

「電車は何分(発)なの?」

私は尋ねました。すぐさま答えが返ってきました。

「七時四十二分です!」

実にさわやかな声でした。やはり人の成長には環境が大きく関わるのだと改めて感じました。

(六月二十三日 記)

